

東京における葬儀の現状と課題

—アンケート調査報告—

小宮一雄

はじめに

葬送儀礼は私たちの寺院活動と大変深いかかわりがある。その中で、葬儀のみを形式的に執行する仏教に対する対して葬式仏教という批判がある。一方、葬儀は生死の問題を真剣に問い合わせる機会であり、その執行にこそ仏教の教化の道があるとの主張がある。この二つの見方をふまえ、私たちはどのような葬儀を目指すべきであろうか。本来的な葬儀とはいがなるものであろうか。この問いに答えるためにも、まず現状を知ることが不可欠であろう。

本報告は、平成六年に、本宗の東京都の正住寺院を対象に実施した「葬儀に関するアンケート」の結果報告である。

葬儀そのものについて考察する場合、儀式についての教理的な視点や、地域や地方性をふまえた視点、民俗的な視点など様々なすることは言うまでもない。特に本アンケート調査の場合、同じ調査を都市部と農村部、東京とそれ以外の地域というかたちで比較研究することで、より有効な研究が可能になることは承知していたが、諸般の事情で、今

回は東京地方のみを対象とした調査を実施したにとどまつた。また、本報告は、単純集計結果を基にした分析であることをお断りしたい。

一、調査の概要

(1) 調査の目的

現代の在るべき葬儀を模索するためには、現状の把握は必須の要件であろう。本調査の設問は、本宗における葬儀に関する以下の資料を参考に作成された。既に提示されている葬儀のかたちと現状とが相違していれば、そこにこそ課題がかくされているとも思えるのである。特に、近年いわれている都市の葬儀の簡略化という問題についても、その具体的な状況を知ることは、大切なことと思われる。

葬儀をめぐる様々な問題を前にして、その実態について、本調査を実施した。

資料1、智山法要便覽 第一集（昭和34年増補改訂三版）

発行所 真言宗智山派教学財団

2、これからのお院行事（昭和47年発行）

発行所 真言宗智山派宗務庁

3、作法集 上 下（昭和41年改訂再版）

発行所 総本山智積院

4、教化推進資料13
生きる力（菩提寺と檀信徒）

仏事のいとなみかたとその意味（平成元年発行）

発行所 真言宗智山派宗務庁

5、智山伝法院選書創刊号 討論真言密教を問う（平成5年発行）

—現代化への提言—

発行所 智山伝法院

（2）調査の内容

本調査は27問の設問からなり、うち最後の設問26・27の二問が自由記述である。設問の要旨は次の通りである。

- 1 回答者の年代・教区
- 2 檇信徒分布状況
- 3 葬儀依頼の方法
- 4 自宅での葬儀の割合
- 5 檇徒以外の葬儀の有無
- 6 死装束について
- 7 納棺立ち会いと入棺作法
- 8 枕経の有無
- 9 枕経・通夜・葬儀・初七日忌の次第

東京における葬儀の現状と課題

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
葬儀に関する感想	葬儀における教化の工夫	葬儀の簡略化について	葬儀資料の希望の有無	教化資料の利用の有無	詠歌奉詠の有無	法話の内容	法話実施の有無	埋葬についての指導	埋葬を行う日	初七日忌法要を行う日	葬儀出仕僧侶の人数	智山勤行式利用の有無	葬儀用御本尊・十三仏用意の有無	諷誦文の内容	生前戒名（逆修）授与の有無	血脉授与の有無	引導法修法の有無

内 訳

教 区	配布数	回収数	回 収 率	有効票	有効票率
東京東部	29	17	58.6%	17	100.0%
東京西部	23	15	65.2%	15	100.0%
東京南部	36	20	55.6%	19	95.0%
東京北部	38	23	60.5%	21	91.3%
東京多摩	47	27	57.4%	26	96.3%
計	173	102	59.0%	98	96.1%

(%)の数値は少數点以下第2位を四捨五入して表記した)

(3) 調査の対象と方法

本調査は、東京都にある本宗の正住寺院173ヶ寺を調査の対象とした。
 調査の実施については、調査票（アンケート用紙）を、智山伝法院より正住寺院に直接郵送配布した。回収は、それぞれの寺院より当院へ直接送付頂いた。回答は無記名とした。

配布並びに回収は次の通りである。

調査票配布
調査票回収 平成6年8月～9月

配布総数	173票
回収総数	102票
有効総数	98票
回収率	59・0%
有効票率	96・1% (回収票の内)

回収票の内4票は葬儀を行っていないことで、一切の回答記載がないため有効票から除いた。

二、集計結果の概要

ここでは、個々の設問に対する回答の概要を記す。

(尚、教区名は、東京東部教区を東部教区、東京西部教区を西部教区、東京

南部教区を南部教区、東京北部教区を北部教区、東京多摩教区を多摩教区と略称する。)

〈設問1〉「年代・教区について」

回答の年代は四十代、五十代が49名と約5割を示し、二十代、八十年代は1割に満たなかつた。教区については、各教区ほぼ同じ回収率であつたといえよう。

〈設問2〉「檀徒分布状況について」

檀徒の7割以上が寺院の周辺（およそ4km以内）にあるとした回答寺院は30%で、そのうち70%を北部・多摩両教区が占めた。逆に檀徒の7割以上が寺から離れているとした回答寺院は19%で、そのうち70%を東部・西部教区が占めた。檀徒の半分位が寺の周辺にあると回答は43%であった。同じ東京であつても、都心部と郊外では檀徒の分布状況が大きく違うことが分かる。

〈設問3〉「葬儀の依頼の仕方について」

寺に直接依頼に来るは23%で、電話での依頼は31%である。但し場合により電話での依頼を含めると、電話依頼は約5割を越える。特に檀徒の分布状況と比例しており、当然地理的条件が直接関係しているようである。

〈設問4〉「自宅で行う葬儀について」

自宅で葬儀を行うが33%で、多摩教区がそのうちの5割を占めた。自宅での葬儀はほとんどないと回答は15%で、うち6割が東部教区であった。これは、檀徒の住宅事情や、斎場利用等の理由ではなかろうか。

〈設問5〉「檀徒以外に依頼された葬儀の執行について」

行っているとの回答は34%あり、特別な場合をふくむと81%になる。これは菩提寺とのつながりが薄い人々が多い

ことを示していることにならう。また、行っていないとする回答は10%あった。

〈設問6〉「故人の死装束は誰がおこなうか」

遺族が行うとの回答が11%、葬儀社が行うが66%であるが、分からぬという回答も12%あった。死装束についての指導が必要かどうかも問題ではなかろうか。

〈設問7〉「納棺（入棺）の立ち会いと、入棺作法について」

依頼のある場合や時々を含めると、納棺には47ヶ寺48%の寺院が立ち会っているが、立ち会っても入棺作法は72%が行っていない。入棺作法を行っているのは12ヶ寺で回答寺院のうちの11%にすぎない。これはいかなる理由によるのだろうか。いずれにせよ簡略化を示すひとつであろう。

また、納棺に立ち会わない理由として、43ヶ寺が依頼がないからとしている。

〈設問8〉「枕経をおこなっているか」

依頼のある場合のみ行うが58ヶ寺、時々行うの20ヶ寺を含めると88%が枕経を行っている。行わないとする10ヶ寺のうち6ヶ寺は依頼がないからと回答している。

〈設問9〉「枕経・通夜・葬儀・初七日忌の次第について」

枕経では、主な經典として般若心經32ヶ寺33%、理趣經28ヶ寺29%、觀音經28ヶ寺29%、が読經され、普回向が68ヶ寺69%、至心回向は8ヶ寺8%となっている。

通夜の主なものとしては、舍利和讚62ヶ寺63%、理趣經51ヶ寺52%、觀音經45ヶ寺46%で、普回向は59ヶ寺60%、至心回向が22ヶ寺22%となっている。

葬儀では、理趣經92ヶ寺94%、奠供82ヶ寺84%、諷誦文71ヶ寺73%、三礼・如來唄47ヶ寺48%、至心回向54ヶ寺55

%、普回向39ヶ寺40%となつてゐる。

初七日忌では、理趣經47ヶ寺48%、觀音經36ヶ寺37%、般若心經24ヶ寺25%、普回向68ヶ寺69%、至心回向16ヶ寺16%である。

経題・項目別に主だった点を以下みてみる。

三礼・如來唄は、葬儀で47ヶ寺、他の法要では約15前後の寺院が唱えている。

佛遺教經は、枕經と通夜で5~6ヶ寺お唱えする寺院があつた。

舍利和讚は、通夜でのお唱えが圧倒的に多い。

舍利礼文は、通夜で27ヶ寺28%初七日忌で約28ヶ寺29%、枕經と葬儀では10ヶ寺約1割がお唱えしている。

陀羅尼、光明真言、御宝号のお唱えは約8割前後の数字が出ていて、經典のみの回答も多くあり、實際はほとんどの寺院で唱えられていると思われる。

回向文は初七日忌では33ヶ寺34%とその奉読が多く見られた。

不動讚は葬儀で12ヶ寺12%、通夜、初七日忌で5ヶ寺5%唱えられていた。

詠歌和讚は、枕經や葬儀では少ないが、通夜で17ヶ寺17%、初七日忌で8ヶ寺8%がお唱えしていると回答している。

智山勤行式は、枕經では16ヶ寺16%、通夜では22ヶ寺23%、葬儀では3ヶ寺3%、初七日忌では18ヶ寺18%使用させていた。

金胎礼讃、仏讚を葬儀でお唱えする寺院も4ヶ寺4%ほどあつた。

その他、お唱えする経題項目として、無常安心章、十三仏念誦聖典、大日讚、懺悔文・三帰礼文・十善戒等や、寺

独自の勤行聖典、真言安心和讃、弘法大師和讃などさまざまなものがあった。

尚、次第についてはここに詳細を記すことはできないが、おおよその傾向として、枕経は般若心經・理趣經・觀音經などが中心に、通夜では理趣經・觀音經を主に舍利和讃は約6割強の寺院で唱えられ、葬儀は理趣三昧を基本とした次第が多く見られ、初七日忌では理趣經・般若心經・觀音經が多く唱えられているようである。

〈設問10〉「引導法を修するか」

89ヶ寺約9割が修すると回答、そのうち85%が葬儀の時と回答している。但し修法しないとの回答も8ヶ寺あり、うち必要がないとの回答が2ヶ寺あった。引導法の意義についての考察も必要に思われた。

〈設問11〉「血脉の授与について」

授与する寺院は24ヶ寺25%、授与しないという寺院は71ヶ寺72%であった。授与しない理由としては、戦災焼失等をふくめ伝授されていないが約5割あり、授与の必要がないとの回答も約21%あった。

本宗において血脉の授与は葬儀における大事な作法と思われるが、約7割の寺院でそれが行われていないことは、どのように考えて行くべきか、課題に思われた。

〈設問12〉「生前戒名（逆修）を授与しているか」

71ヶ寺約7割の寺院で生前戒名を授けていないとの結果がでた。

〈設問13〉「どのような諷誦文を使用しているか。」

故人それぞれに作文したものを使用との寺院は16ヶ寺あり、定形の文に一部差し替え文を使用しているが57ヶ寺約

6割弱の寺院、定形の文を使用が15ヶ寺16%であった。

法要の主旨を述べ、故人の冥福を祈り、徳を讃える諷誦文の工夫は、大いに考えるべきであろう。但し、葬儀は生

前の衆生界での行為に拘泥せず、仏界での成仏を説けば良いとの先人の教えもあるようだ。いずれにせよ葬儀において今後の課題としてあることは確かである。

〈設問14〉「葬儀用の御本尊や十三仏掛け軸の使用について」

69ヶ寺約7割が用意しないと回答、そのうち約3割は用意する必要がないとの回答であった。又、葬儀用の御本尊や十三仏掛け軸がないとの回答は30ヶ寺あった。ある地方寺院の住職が東京にいる檀徒の葬儀に十三仏掛け軸を背中にして上京された。御本尊の用意を省くのも簡略化のひとつではないかと思うがいかがなものであろうか。

〈設問15〉「葬儀・通夜での智山勤行式の利用について」

30%が利用し、65%が利用していないとの回答結果であった。教区別では多摩教区の利用が14ヶ寺と全体の約半分を占めた。利用しない理由としては、特に必要と思われないが約4割弱を示し、寺独自の勤行式を使用しているとの回答も23%あった。

〈設問16〉「葬儀の僧侶の出仕人数の決め方について」

約4割強が檀徒の依頼によって決めていた。お布施やお戒名によつて決めるとの回答は1割に満たなかつた。

〈設問17〉「いつ初七日忌を行うか」

葬儀の当日に行うが80ヶ寺82%を示し、正当の日に行うは1割であった。忙しい現代人の実状の一断面かも知れな

い。
〈設問18〉「いつ埋葬を行うか」

七七日忌が50ヶ寺51%で、中陰の期間中が19%で、葬儀当日は16%という回答結果であった。

〈設問19〉「埋葬の指導について」

葬儀当日あるいはなるべく早く埋葬するよう指導している寺院が21%、七七日忌に埋葬するよう指導しているが37ヶ寺38%、特に指導していないが36%となっている。埋葬については、早くすべき、あるいは七七日忌のときがよいなどいろいろ意見が分れる所で、現状もそのことを如実にあらわしているようだ。地域性もあり簡単に決められない問題の一につに思われる。

〈設問20〉「法話をしますか」

約5割強が必ず法話をする回答と、時々すると合わせると83ヶ寺85%が法話をしている。

法話をする時は、初七日忌のときが45%、通夜のときが29%である。

法話の時間は、10分以内が約5割強で、10分から20分の間が33%であった。

法話をしない寺院14ヶ寺のうち、特に必要がないとの理由をあげた寺院は4ヶ寺あった。

たとえ一言であっても、葬儀を通して生死について僧侶が自らの言葉で参列者に語りかけることは、大きな意味があると思うがいかがであろうか。

〈設問21〉「法話の内容について」

回答は多岐に亘っていたが、主なものでは戒名について21%、中陰について15%、故人の人柄について14%、遺族の心構え12%となっていた。

〈設問22〉「詠歌の奉詠について」

何らかの形でお唱えするが32ヶ寺33%、お唱えしないが61ヶ寺62%であった。奉詠は、通夜が50%、法要時は必ずが15%であった。

詠題は、通夜のときの「追弔和讃」が最も多く、初七日忌には、「追善供養和讃」あるいは「いろは和讃」・「追弔

和讃」が唱えられているようであった。

詠歌を唱えない61ヶ寺の内、今後お唱えしたいは13ヶ寺21%、とくに必要と思わないうが27ヶ寺44%あつた。

詠歌の浸透のためには、どのような方策が必要か課題と思われる。

〈設問23〉「教化資料の利用について」

約3割弱が教化資料を利用している。本宗の資料では、リーフレット「初七日忌から四十九日忌まで」「お葬式」「法名（戒名）」などが多く利用されていた。手頃なリーフレットは参列者に配るのにも便利なものとしてその利用が多いと推察される。

〈設問24〉「葬儀に関する教化資料発行の希望について」

約8割の寺院で教化資料の発行を希望しており、内容的には「教師用葬儀心得」「檀信徒用葬儀心得・仏事解説」等が希望として多かった。

体裁については、檀信徒用としては、40%がリーフレット、35%がパンフレットと別れた。教師用としては、約8割強が冊子を希望している。

〈設問25〉「東京の葬儀は簡略化しているか」

63ヶ寺が簡略化していると回答、15ヶ寺が簡略化しているとは思わない回答、どちらとも言えないが18ヶ寺院と回答を寄せている。

簡略化の理由としては、葬祭業者の主導が40ヶ寺36%、都市生活が忙しいためが30%、僧侶の指導力不足と、檀徒の希望がそれぞれ16%であつた。

〈設問26〉「葬儀に関して、教化上特に工夫していること」（自由記述）

この設問については34ヶ寺より回答を得た。その主なものとしては、「諷誦文の工夫」「参列者と經典の唱和」「法話の実践」「火葬場へ同行し遺族と接点を深める」「嚴肅如法を心掛け、心に訴える所作法式を工夫」「教化資料の活用」「散華の作成と授与」「略土砂加持を修す」「葬祭業者主導にならぬよう事前に業者と話す」「写経をさせる」「葬儀開式前に、法話・引導法・勤行式唱和を行い、葬儀は読經に専心」「和訳の經を唱える」「葬家とよく話す」等々。

〔設問27〕「葬儀に関して、日頃感じていること」（自由記述）

この設問については44ヶ寺より回答を得た。その主なものとして、「真言宗本来の引導を行える莊嚴の解説がほしい」「葬儀は日常の教化の一コマ、日常も大切」「葬儀は最後の別れの儀式として重要な意義がある」「散骨、自然葬をどのようにとらえるべきか」「形式化しやすいが、心構えで内容豊かにもなる、大切な教化の場」「生命の神秘を訴える最高の契機、参列者に自らの生命の意義を考えさせる」「葬儀を教理的に意義付けたい」「各自が自信をもつて本來の姿を求めて行くべきだ」「我々も積極的に行動すべき、宗団も地域差を考慮し式次第等冊子を作成してほしい」「葬祭業者主導であっても工夫できることはある」「葬祭業者が當利に走り費用がかかり過ぎる」「葬儀日時が決まってから連絡にくるのは困る」等々。

結びに考えて

本調査では次の主な点が明らかになった。

- 1、東京と一口にいっても、檀徒の分布状況、葬儀の依頼方法、葬儀の会場等では地域によってかなりの相違がみられた。例えば東部教区の商業地区と多摩教区の住宅地区ではその違いが顕著であった。
- 2、全体的にみて、血脉授与は少なく、また生前戒名の授与も少ない。

3、葬儀用の御本尊や十三佛の掛け軸の用意は少ない。

4、法話はかなりの寺院で実施している。

5、葬儀を教化の視点から重要視し、教化資料の発行を望んでいる。

6、葬儀の意義をしつかりとつかみ、実践することの大切さを痛感している。

7、葬祭業者主導の葬儀の在り方に疑問をもつも、その対策は十全とはいえない。

ところで、真言宗の葬儀として大切なものは、引導作法と、読経と、更にはその主旨の徹底ではないだろうか。引導とは、人を導き仏道に引き入れることであり、転じて、死者に対し灌頂を施し即身成仏の秘印明を授け、成仏を確定せしむることである。^(注1)死者は秘印を授かり悟りの世界に生きる正当な証しとして血脉を頂くのであるから、血脉の重要なことは、周知の如くである。^(注2)経典の読誦は、その読経の功德によって、死者の冥福と、遺族参列者の平安を祈ることである。

この引導作法と読経に御本尊は欠かせないであろう。御本尊の加護のもと、死者が確固として仏界に生きるよう、引導法を修し、読経するのである。

さて、真言宗は、具体的な手立てを大切にする。それは、まさに死者を導き遣された者を教化するための方便である。御本尊の尊像をおまつりし、血脉を授ける、その具体的な姿に真言宗の葬儀には道が示されていると言うことができないだろうか。御本尊をおまつりし祈ることは、死者をして本不生を悟ることを祈り、自らもその阿字の世界を体得することであり、血脉を授けることは、密厳淨土に生きる証明を与えたことになる。^(注3)

一方葬儀の意義を分かりやすく説くことも忘れてはならないだろう。法話を通して、遺された者に死者の冥福と今を生きる意味を問い合わせすることは大切なことである。

かつて現代における葬儀の諸問題として、（1）核家族化の進展にともなう「家」意識の希薄による、「先祖崇拜」の希薄化の傾向。その中の「先祖崇拜」にかわる新しい生死観の要求。（2）葬儀の形式化のなかで問われる、真言行者としての宗教体験をいかした修法。（3）もつと生者に授戒・灌頂を行い、死者には新たな葬送儀礼の模索^(注4)を。等の問題点が指摘された。問題は多岐にわたるであろう。東京における葬儀の形式化は、都市型のひとつの典型として地方にも波及しつつある。^(注5) とすれば、この問題はいち東京地方だけの問題に止まらない。が、その基本はやはり導師の宗教的信念にあることは言うまでもないだろう。

（注1） 真言宗における葬儀（引導）のあり方

（「現代密教」第7号186頁 発行智山伝法院）

（注2） 「血脉は最も大切な物であって、光明真言破地獄曼荼羅を授与するのである。」

（「智山法要便覽」第1集182頁 発行真言宗智山派教学財団）

（注3） 「自宗の引導は生佛不二の理を教示するを肝要となし」

（「如來拳印」の觀文 作法集 上 16頁 発行總本山智積院）

（注4） 前出。注1 189頁

（注5） 「討論－真言密教を問う」 141頁 智山伝法院選書創刊号

これらの諸点を踏まえ、既に実践されている寺院もあるが、教化の視点から東京地方の葬儀について、次の提案をしてみたい。

東京における葬儀の現状と課題

1、式場に必ず、御本尊あるいは十三佛の掛け軸をおまつりする。

葬儀用御本尊として、三つ折屏風型のものもある。

御本尊のもと仏界に導かれていくことを具体的に示すてだてになろう。

2、血脉を授与する。御本尊大日如来から脈々と伝わってきた教えを授かり涅槃寂靜の世界に導かれていくことを確りと示す。

(尚、戦災等で焼失した寺院の血脉をどうすべきか識者の指導を仰ぎたい。)

3、お経やご詠歌を参列者と唱和する。例えば智山勤行式、或いは光明真言や御宝号だけでも唱和したい。参列者も共に至心に祈る法悦を味わう。

4、法話を実践し、生死一如の教えをわかりやすく説いていく。

最後に本調査を実施するにあたってご協力頂いた御寺院住職各位に厚く御礼申しあげると共に、本報告が十全でなく且つ諸般の都合により大変遅くなつたことを深くお詫びします。

東京における葬儀について —集計表—

平成6年 調査

《回収状況》

対象寺院	総 数	回収総数	回収率(%)	有効総数
東京都正住寺院	173	102	59.0	98

※数値は小数点以下第2位を四捨五入して表記した。

1. あなたの年代・教区を記入してください。

年 代	回答数	%
1. 20代	3	3.1
2. 30代	10	10.2
3. 40代	25	25.5
4. 50代	24	24.5
5. 60代	17	17.3
6. 70代	14	14.3
7. 80代	5	5.1
8. 90才以上	0	0
計	98	100.0

教 区	回答数	%
1. 東部	17	58.6
2. 西部	15	65.2
3. 南部	19	52.8
4. 北部	21	55.3
5. 多摩	26	55.3
計	98	56.6

2. 貴寺の檀徒分布状況についておたずねします。

	回答数	%
1. 7割以上が寺の周辺にある	30	30.6
2. 7割以上が寺から離れている	19	19.4
3. 半分位が寺の周辺にある	43	43.9
4. その他	6	6.1
計	98	100.0

※寺の周辺とは、寺からおよそ4km以内とします。

東京における葬儀の現状と課題

3. 貴寺では、葬儀の依頼は、どのような形できますか。

	回答数	%
1. 寺に直接依頼に来る	23	23.5
2. 電話での依頼	31	31.6
3. () 割位が電話での依頼	40	40.8
4. その他	4	4.1
計	98	100.0

4. 自宅で行う葬儀は、どのくらいありますか。

	回答数	%
1. ほとんどすべて	32	32.7
2. 半分くらい	40	40.8
3. ほとんど無い	15	15.3
4. その他	11	11.2
計	98	100.0

5. 貴寺では、檀徒以外に依頼された葬儀を行っていますか。

	回答数	%
1. 行っている	33	33.7
2. 特別の場合のみ行う	46	46.9
3. 行っていない	10	10.2
4. 依頼されない	5	5.1
5. その他	4	4.1
計	98	100.0

6. 貴寺の檀徒では、故人の死装束を主に誰がおこないますか。

	回答数	%
1. 僧侶	0	0
2. 遺族	11	11.2
3. 葬儀社	65	66.3
4. おこなわない	5	5.1
5. わからない	12	12.2
6. その他	5	5.1
計	98	100.0

§ 死装束とは、経子・頭弥袋・金剛杖・笠などをいいます。

7. 貴寺では、納棺に立ち会いますか。

	回答数	%
1. 立ち会う	2	2.0
2. 時々立ち会う	10	10.2
3. 依頼のある時のみ立ち会う	35	35.7
4. 立ち会わない	51	52.0
計	98	100.0

→ 1. 2. 3. とお答えの方におたずねします。

僧侶が入棺作法をおこないますか。

	回答数	%
1. おこなっている	7	14.9
2. 時々おこなう	5	10.6
3. おこなわない	32	68.1
4. 入棺作法を知らない	2	4.3
5. その他	1	2.1
計	47	100.0

→ 4. とお答えの方におたずねします。

その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 檎徒の家が遠いから	0	0
2. 多忙だから	2	3.9
3. 依頼がないから	43	84.3
4. その他	6	11.8
計	51	100.0

東京における葬儀の現状と課題

8. 貴寺では、枕経をおこなっていますか。

	回答数	%
1. おこなっている	8	8.2
2. 時々おこなう	20	20.4
3. 依頼がある場合のみおこなう	58	59.2
4. おこなわない	10	10.2
5. 無回答	2	2.0
計	98	100.0

→ 4. とお答えの方におたずねします。
その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 檎徒の家が遠いから	0	0
2. 多忙だから	1	10.0
3. 依頼がないから	6	60.0
4. その他	3	30.0
計	10	100.0

9. 貴寺の枕経・通夜・葬儀・初七日忌の次第について、経題或いは項目を、次第の順に下記に数字で記入下さい。

	枕経	%	通夜	%	葬儀	%	初七日忌	%
1. 三礼・如来唄	18	18.4	13	13.3	47	48.0	15	15.3
2. 羣供	4	4.1	14	14.3	82	83.7	5	5.1
3. 理趣経	28	28.6	51	52.0	92	93.9	47	48.0
4. 観音経	28	28.6	45	45.9	2	2.0	36	36.7
5. 般若心経	32	32.7	12	12.2	5	5.1	24	24.5
6. 佛遺教経	5	5.1	6	6.1	0	0.0	1	1.0
7. 舍利和讃	6	6.1	62	63.3	0	0.0	5	5.1
8. 舎利礼文	10	10.2	27	27.6	10	10.2	28	28.6
9. 陀羅尼	63	64.3	80	81.6	82	83.7	75	76.5
10. 光明真言	73	74.5	81	82.7	86	87.8	76	77.6
11. 御宝号	70	71.4	77	78.6	85	86.7	74	75.5
12. 普回向	68	69.4	59	60.2	39	39.8	68	69.4
13. 至心回向	8	8.1	22	22.5	54	55.1	16	16.3
14. 回向文	2	2.0	8	8.2	3	3.1	33	33.7
15. 讀誦文	0	0.0	2	2.0	71	72.4	1	1.0
16. 金剛界礼讃	2	2.0	1	1.0	4	4.1	2	2.0
17. 胎藏界礼讃	1	1.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0
18. 仏讃	1	1.0	0	0.0	4	4.1	3	3.1
19. 不動讃	1	1.0	5	5.1	12	12.2	5	5.1
20. 詠歌和讃	3	3.1	17	17.3	4	4.1	8	8.2
21. 智山勤行式	16	16.3	22	22.4	3	3.1	18	18.4
22. その他	8	8.2	26	26.5	9	9.2	17	17.3

東京における葬儀の現状と課題

10. あなたは引導法を修しますか。

	回答数	%
1. 修法する	86	87.8
2. 修法しない	8	8.2
3. その他	3	3.1
4. 無回答	1	1.0
計	98	100.0

→ 1. とお答えの方におたずねします。

いつ修法しますか。

	回答数	%
1. 枕経のとき	0	0
2. 通夜のとき	9	10.1
3. 葬儀のとき	76	85.4
4. その他	4	4.5
計	89	100.0

→ 2. とお答えの方におたずねします。

その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 伝授されていない	1	11.1
2. 必要がない	2	22.2
3. 時間がない	2	22.2
4. 修法できない	0	0
5. その他	3	33.3
無回答	1	11.1
計	9	100.0

§ 4 無回答が含まれています。

11. 貴寺では、血脉（破地獄曼荼羅）を授与しますか。

	回答数	%
1. 授与する	24	24.5
2. 授与しない	71	72.4
3. その他	3	3.1
計	98	100.0

→ 1. とお答えの方におたずねします。

貴寺では、いつ血脉を授与しますか。

	回答数	%
1. 枕経のとき	0	0
2. 納棺のとき（入棺作法のとき）	1	4.2
3. 通夜のとき	8	33.3
4. 葬儀のとき	13	54.2
5. 生前	0	0
6. その他	2	8.3
計	24	100.0

→ 2. とお答えの方におたずねします。

その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 必要がない	15	21.1
2. 戦災等で相承の血脉がない	16	22.5
3. 作成の時間がない	3	4.2
4. 伝授されていない	20	28.2
5. その他	13	18.3
無回答	4	5.6
計	71	100.0

東京における葬儀の現状と課題

12. 貴寺ではどのくらいの檀徒に生前戒名（逆修）をお授けしていますか。

	回答数	%
1. ほとんど授けていない	71	72.4
2. () 割位の檀徒に授けている	15	15.3
3. その他	11	11.2
無回答	1	1.0
計	98	100.0

13. 貴寺では、どのような諷誦文（歎徳文）を使用しますか。

	回答数	%
1. 故人それぞれに作文したもの	16	16.3
2. きまった形のもの	15	15.3
3. 定形の文に一部差し替えたもの	57	58.2
4. 奉読しない	6	6.1
5. その他	3	3.1
無回答	1	1.0
計	98	100.0

14. 貴寺では葬儀の際、葬儀用の御本尊（大日如来の尊像又は図像など）や十三仏の掛け軸を用意しますか。

	回答数	%
1. 御本尊を用意する	2	2.0
2. 十三仏掛け軸を用意する	19	19.4
3. 御本尊と十三仏掛け軸の両方用意する	0	0
4. とくに用意しない	69	70.4
5. その他	8	8.2
計	98	100.0

→ 4. とお答えの方におたずねします。
その理由は次のどれに該当しますか。（複数回答可）

	回答数	%
1. 必要がない	27	31.8
2. 式場が遠方のため	3	3.5
3. 式場が狭いため	13	15.3
4. 葬儀用本尊・掛け軸がないため	30	35.3
5. その他	11	12.9
無回答	1	1.2

15. 貴寺では葬儀・通夜で宗務庁（宗団）発行の智山勤行式を利用していますか。

	回答数	%	
1. 利用している	30	30.6	
2. 利用していない	64	65.3	
3. その他	4	4.1	
計	98	100.0	

→ 2. とお答えの方におたずねします。
その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 寺独自の勤行式を使用しているから	15	23.4
2. 時間の余裕がないから	16	25.0
3. 特に必要とおもわれないから	25	39.1
4. その他	7	10.9
無回答	1	1.6
計	64	100.0

16. 貴寺では、葬儀の僧侶の人数をどのように決めていますか。主なもの2つまで記入下さい。

	回答数	%
1. 日頃の寺への貢献度によって	25	15.3
2. 総代・世話人等の役員かどうかで	26	16.0
3. 布施によって	4	2.5
4. 戒名によって	9	5.5
5. 檀徒の依頼によって	67	41.1
6. 特に基準はない	24	14.7
7. その他	8	4.9

東京における葬儀の現状と課題

17. 貴寺では、いつ初七日忌法要を行う檀徒が多いですか。

	回答数	%
1. ほとんど正担当日	10	10.2
2. ほとんど葬儀の当日	80	81.6
3. 特に決まっていない	3	3.1
4. その他	5	5.1
計	98	100.0

18. 貴寺では、いつ埋葬される檀徒が多いですか。

	回答数	%
1. 葬儀の当日	16	16.3
2. 中陰の期間中	19	19.4
3. 七七日忌（忌明け）	50	51.0
4. その他	13	13.3
計	98	100.0

19. あなたは埋葬について、特に指導していますか。

	回答数	%
1. 葬儀の日に行うよう話している	9	9.2
2. なるべく早く埋葬するよう話している	12	12.2
3. 七七日忌に埋葬するよう話している	37	37.8
4. 特にしていない	35	35.7
5. その他	5	5.1
計	98	100.0

20. あなたは法話をしますか。

	回答数	%
1. 必ずする	50	51.0
2. 時々する	33	33.7
3. しない	14	14.3
無回答	1	1.0
計	98	100.0

→ 1. 2とお答えの方におたずねします。

主にいつ法話をしますか。 (複数回答可)

	回答数	%
1. 枕経のとき	12	7.9
2. 通夜のとき	44	28.9
3. 葬儀のとき	13	8.6
4. 茶毎をしている間	6	3.9
5. 初七日忌のとき	69	45.4
6. その他	8	5.3

法話は主にどのくらいの時間しますか。

	回答数	%
1. 10分以下	43	51.8
2. 10分から20分程度	27	32.5
3. 30分以上	1	1.2
4. 特に決めていない	12	14.5
5. その他	0	0
計	83	100.0

東京における葬儀の現状と課題

→3. とお答えの方におたずねします。

その理由は次のどれに該当しますか。

	回答数	%
1. 僧侶に時間がないから	2	14.3
2. 遺族が忙しいから	2	14.3
3. 後日法事のときにするから	3	21.4
4. 特に必要がないから	4	28.6
5. その他	2	14.3
無回答	1	7.1
計	14	100.0

21. 法話の内容はどのようなものですか。主なもの3つまで記入下さい。

	回答数	%
1. 故人の人柄について	33	14.3
2. 戒名について	48	20.9
3. 十三仏について	20	8.7
4. 中陰について	35	15.2
5. 死後の世界について	8	3.5
6. 遺族の心構えについて	28	12.2
7. 通夜・葬儀のつとめ方や心得について	7	3.0
8. 合掌について	2	0.9
9. 念珠について	2	0.9
10. 焚香・線香について	11	4.8
11. ご本尊について	9	3.9
12. お経の功徳について	11	4.8
13. 光明真言について	2	0.9
14. その他	13	5.7
無回答	1	0.4

22. 貴寺では、ご詠歌をお唱えしていますか。

	回答数	%
1. 僧侶のみお唱えする	27	27.6
2. 参列者も共にお唱えする	3	3.1
3. ご詠歌の出来る参列者がいるときのみお唱えする	2	2.0
4. お唱えしない	61	62.2
5. その他	3	3.1
無回答	2	2.0
計	98	100.0

→ 1.2.3. とお答えの方におたずねします。
いつお唱えしますか。 (複数回答可)

	回答数	%
1. 枕経のとき	5	9.3
2. 通夜のとき	27	50.0
3. 葬儀のとき	5	9.3
4. 法要時は必ず	8	14.8
5. 特に決めていない	6	11.1
6. その他	3	5.6

何をお唱えしますか。下記の中からお示し下さい。(複数回答可)

	枕経	%	通夜	%	葬儀	%	初七日忌	%
1. 追弔和讃	4	80.0	30	83.3	2	28.6	4	26.7
2. 追善供養和讃	0	0	1	2.8	3	42.9	7	46.7
3. いろは和讃	1	20.0	1	2.8	2	28.6	4	26.7
4. 混槃和讃	0	0	0	0	0	0	0	0
5. その他	0	0	4	11.1	0	0	0	0

東京における葬儀の現状と課題

- 3. とお答えの方におたずねします。
今後はご詠歌をお唱えますか。

	回答数	%
1. お唱えしたい	13	21.3
2. 特に必要と思わない	27	44.3
3. どちらとも言えない	19	31.1
4. その他	1	1.6
無回答	1	1.6
計	61	100.0

23. 貴寺では、葬儀のとき教化資料を利用していますか。

	回答数	%
1. 利用している	29	29.6
2. 利用していない	66	67.3
無回答	3	3.1
計	98	100.0

- 1. とお答えの方におたずねします。
その資料は、どのようなものですか。利用している
ものすべてに○をつけて下さい。

	回答数	%
1. 寺独自に作成したもの	8	8.6
2. 市販のもの	11	11.8
3. 教化推進資料第13集「仏事のいとなみかたとその意味」	10	10.8
4. 教化推進資料第14集「ご祈願と十三仏信仰」	7	7.5
5. リーフレット12「法名」（戒名）	13	14.0
6. リーフレット19「お葬式」	14	15.1
7. リーフレット20「初七日忌から四十九日忌まで」	16	17.2
8. リーフレット49「悲しみをこえて」	4	4.3
9. その他智山派発行の資料	8	8.6
10. その他	2	2.2

24. あなたは、葬儀に関する教化資料の発行を希望しますか。

	回答数	%
1. 希望する	79	80.6
2. 希望しない	18	18.4
無回答	1	1.0
計	98	100.0

→ 1. とお答えの方におたずねします。

どのような内容のものですか。主なもの2つまで記入下さい。

	回答数	%
1. 檀信徒用の葬儀の心得	39	19.9
2. 檀信徒用のお経の解説	17	8.7
3. 檀信徒用の仏事の解説（教え・戒名・中陰・合掌・念珠など）	44	22.4
4. 教師用の葬儀の心得	59	30.1
5. 讀誦文（歎徳文）集	20	10.2
6. 血脈	15	7.7
7. その他	2	1.0

どのような体裁のものですか。

	檀信徒用		教師用	
	回答数	%	回答数	%
1. パンフレット（1枚もの）	29	40.3	1	1.6
2. パンフレット（4～6枚もの）	25	34.7	6	9.5
3. 冊子	16	22.2	51	81.0
4. その他	1	1.4	2	3.2
無回答	1	1.4	3	4.8

東京における葬儀の現状と課題

25. あなたは東京の葬儀は簡略化していると思いますか。

	回答数	%
1. 思う	63	64.3
2. 思わない	15	15.3
3. どちらとも言えない	18	18.4
4. その他	1	1.0
無回答	1	1.0

→1. とお答えの方におたずねします。

その理由は次のどれに該当しますか。主なもの2つまで記入下さい。

	回答数	%
1. 都市の生活が忙しく動いているため	33	30.0
2. 葬祭業者の主導のため	40	36.4
3. 僧侶の指導力が不足しているため	17	15.5
4. 檀徒が希望しているため	17	15.5
5. その他	3	2.7

26. 葬儀に関して、教化上特に工夫していることがあればお書き下さい。

(自由記述)

27. 葬儀に関して、日頃感じていることを自由にお書き下さい。

(自由記述)